

M E D A L M E T A L



# メダル

— メダルとレリーフ

# メ タ ル



亀倉勇策《東京オリンピック記念》1964、畑正吉《女神像》、《御即位大礼之記念》1915、《加藤高明伯銅像開幕式記念》1928  
畑正吉《松岡壽先生》1929、《大礼記念京都大博覧会》1928

4月7日(金) — 4月23日(月) 10:00-17:00  
金曜～月曜開場

山鬼文庫 <http://www.sankibun.com/>  
金沢市桜町 5-27 tel.076-254-6596

M E D A L & R E L I E F



造幣局《翁面》、《鳥取県立鳥取図書館開館記念》1931、《明治十四年内国勲業博覧会有効牌》1881（表）、（裏）、明治三十七年従軍記章  
《日本国憲法発布記念》1946、《大礼記念国産振興東京博覧会優良国産賞》1928、《御大典奉祝名古屋博覧会賞》1928



三代広重《上野公園内国勲業博覧会美術館及狸々噴水器之図》1881

オリンピックを始め優秀な成績にメダルを授与する風習は明治になってヨーロッパから日本に伝えられました。殖産興業政策として美術が推奨された時代、内国勲業博覧会では入賞者に豪華なメダルが授与され、華々しく名誉がたたえられました。多くのメダルにはシンボルとなる図像が薄肉浮彫りで表されていました。こうした浮彫りもまた西洋伝来の技法で、貨幣を鑄造する大阪造幣局が得意とするところであり、求めに応じて数多くのメダルが制作されました。同局の囑託に任せられた畑正吉

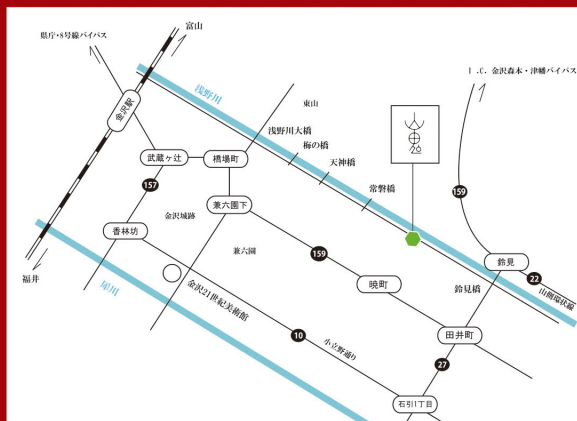


小林清親《明治十年勲業博覧会瓦斯館之図》1878

(1892-1966) はフランス・アカデミーに学んだ本格的な浮彫りの名手で、今見てもその優れた技巧は見る者を圧倒します。本展では旗の作品を始め、1964年東京オリンピックに至る日本のメダルの数々をご紹介します。



《明治十年内国勲業博覧会褒賞》1878、《平和記念博覧会記念賞牌》1922  
《創立五十周年記念 東京高等工芸学校附属工芸実修学校》1935  
《平和記念東京博覧会銅牌》1922



山鬼文庫は  
浅野川ほとりの  
静かなブックカフェです。  
穏やかな川辺の眺めに  
憩ってみませんか。